

# 隣保館だより

編集 下榎隣保館 〒689-4526 日野町下榎157番地1  
電話：72-1191 (FAX兼)  
E-mail：rinpokan@town.hino.tottori.jp



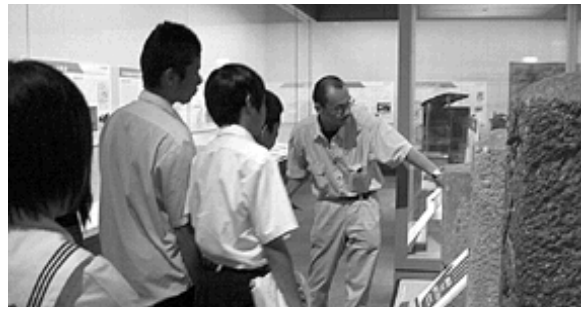
## 陶芸に挑戦

緊張しながらも楽しい作業

隣保館では初めてという人がほとんどで、講師の塚本正夫さんをはじめ町公民館陶芸グループの松本さん、西村さんの指導のもと1回目は粘土をこねることから始めて、お皿や抹茶茶碗など思い思いの形をつくりました。2回目は素焼きされた作品に色付けをして焼きに出しました。焼き上がりを楽しみます。



形ができた作品。焼きあがるのを待つばかり



解放運動の歴史を知る

1日目は、大阪人権博物館に行きました。ここのは、部落問題をはじめとする人権問題についての調査研究を行うとともに、関係資料や文化財を収集・保存し、また展示・公開しているところです。

2日目は、奈良の水平社博物館を見学しました。水平社博物館は全国水平社を創立するまでの経緯や、尽力した人たちの遺志を継承していくために作られました。その中で、全国水平社創大会を疑似体験できるフアンタビユーシアターをより熱心に見学していました。また、博物館の向かいには、西光万吉の生家である西光寺も見ることができ、生徒たちの念願がかないました。

## 榎の実学習会 現地視察研修

榎の実学習会の中学生が、夏休みを利用して、7月30日・31日の2日間、現地視察研修に出かけました。

最初に研修支援として博物館職員から話を聞き、館内を見学しました。生徒たちは、熱心にメモをとりながら館内をまわりました。

9月の学習講座予定  
■編み物 13日(土) 午後1時～  
老人憩の家 (講師 安達利子さん)  
■生け花 16日(火) 午後7時30分～  
下榎集会所 (講師 生田清子さん)  
▼日程など変更になることがあります。  
詳しくは下榎隣保館へ▼どの講座も2時間の予定です。お気軽に参加ください



これで宿題もバッチリ

▼夏休み勉強会  
夏休み勉強会を7月29日に下榎集会所で開きました。この勉強会は、榎の実学習会が、どんなところでどんなことをしているのかなど、みんなに知ってもらうために昨年から根雨小学校が行っている学習会です。参加した児童は、夏休みの宿題などを持ち寄り、友達と教えあいながら学習しました。

# 人権のまち

# ひの

2008年8月

## 第33回部落解放・ 人権西日本夏期講座に 参加して

山本 武史

世界人権宣言の精神の  
普及を目指して

7月16日、17日、佐賀県総合体育館で開かれた部落解放・人権西日本夏期講座に参加してきました。

講座では、はじめに主催者を代表して実行委員会代表の寺本伸明さんがあいさつし、「世界人権宣言が採択されてから60年。この世界人権宣言は、差別を撤廃し、人権を守ることが恒久平和の実現に通じるという考え方を基本理念とし、すべての国や市民が達成すべき共通の基準である。」

国の内外では、この理念に基づき様々な取り組みが展開されてきた。しかしながら、人権状況を直視した際、改めて世界人権宣言の精神を普及するとともに『人権救済法』(仮称)の早期制定や人権尊重の町づくりに向けた取り組みを強化する必要がある」と力強く語り、講座が始まりました。

差別事件の実態を知り  
自分を振り返る

パネルディスカッションでは、「悪質な差別事件と人権救済法の制定を目指して」と

題して、2つの連続大量差別八ガキ事件の報告がありました。報告者は、「毎日、家のポストを開けるのが怖かった。一番苦しんでいるのは母親としての連れ合いであり、一番の犠牲者は3人の子どもたち。その心境は親としても伺い知れない。また、子どもは『親がまた心配するだろう』といつて隠したこともある」と話されました。

この報告を自分に置き換えたととき、4年以上も悪質な差別が繰り返される中、家族を守る事ができるのだろうかと思ひ、全ての人たちが安心して暮らせる社会を作るために、標題にある人権侵害救済法の制定や、コーディネーターが例にあげていた鳥取県条例の施行を強く望みました。

人との出会いと経験が  
自分を変える

「人権教育の広がり」教室

から、地域・職場へ」の講演では、今どきの子どもたちの特徴として、固定的・閉鎖的な人間関係、同調志向が強く、心の中は自分の気持ちの伝え方がわからなく、また、トラブルの解決の仕方もわからない。したがって攻撃的な行為や自虐的な行為に走ってしまうということ、ケータイ・ネット問題を通して話されました。

また、「人権教育は人と人をつなぐとして、出会いと体験によって価値観が変わる。自分を語ることで他者とつながる。『人権学習って、ぬくいなあ』と思えるように、人権学習と人間関係づくりの統合が重要である。様々な人権問題の根っこは同じ、多様な共生社会に向けて『みんな同じ』から『みんな違ってみんないい』への転換が必要である」と話されました。

「多様な人間との出会いで子どもは変わる」と話された

とき、子どもとの出会いで大人も変わると強く思いました。  
学習の成果を  
地域・職場で実践して

保育所、小学校、中学校の人権学習の中で子どもたちの思いに触れたとき、いっしょに学習している私たち大人や家族の考えが変わります。それは、親として、家族として子どもを一番願っているからです。人権問題を通して、自分の生き方、人とのかわり、社会とのかわり、考えながら、小地域座談会や地域や職場での人権学習・実践につなげていきましょう。  
この2日間の研修は、自分にとつてとても有意義で、自分を振り返ることのできた研修でした。

